

中国語学習における文化紹介強化の試み ——動画映像の作成とその活用——

プロジェクトメンバー：洪潔清*、張宏波（*：代表者）

語学を学ぶと共に、背景にある文化や社会に対する理解を深めることにより、学生に中国への興味や関心を持たせて、より積極的に学ばせることができないだろうか——これが本プロジェクトの問題意識である。その一つ的手段として、動画映像という媒体のさらなる可能性を明らかにしたいと考え、撮影と編集、そして授業時の活用とその効果について検討することを目的とした。そこで、今年度は以下の活動を行った。

一、アンケート調査の実施

中国語を履修する学生が中国の文化や社会に対してどれぐらいの知識を持っているかを把握し、限られた語学学習の時間で、学生のニーズに応じた動画映像を紹介するため、4月第2週目から中国語を履修する学生を対象にアンケート調査を行った。一年生188人と二年生31人、計219枚の有効回答を得た。具体的には、下記の三つの内容について調査を行った。

- (1) 中国の文化や社会についての基礎知識に関して、まず三択形式で調査を行ったが、正解の集計結果から下記の現状がわかった。「中国の国土が広い」と分かっているにもかかわらず、どれぐらいの面積があるかはイメージすることができず、正解率は35%にとどまった。また、中国の建国記念日（国慶節）や、日本と中国はいつ国交回復したかといった歴史的知識もあまり持っておらず、正解率はそれぞれ38%と51%であった。さらに、3%の学生は首都が北京であることすら知らなかった。
- (2) 次に、自由記述式でも中国の文化や社会についてのイメージを尋ね、以下の結果を得た。
 - ①中国といっただけですぐに思い浮かべるものとしては、「中華料理」（55%）、「パンダ」（22%）、「大気汚染」（17%）と「人口が多い」（17%）の順であった。
 - ②少数民族の存在については「無回答」も多かったが、多く挙げられたのは「チベット族」（31%）と「ウイグル族」（22%）であった。
 - ③世界遺産については74%の学生が「万里の長城」しか挙げられなかった。
 - ④祝祭日についても「春節（旧正月）」は34%しか知らなかった。
- (3) 中国に関して今後さらに理解を深めてみたいと思う点について、次のような調査を行った。具体的には、①～⑧について関心の高い項目に順位をつけてもらい、さらにその中の分類項目から関心があるものを選ぶ方法である。
 - ①伝統演劇（京劇等）、伝統スポーツ（太極拳等）などを含む「中国の伝統文化」
 - ②食文化、映画・ドラマなどを含む「中国の現代文化」
 - ③社会問題（治安等）、中国人の考え方・慣習などを含む「中国の現代社会」
 - ④経済成長の実態、貧富の差の現状を含む「現代の中国経済」
 - ⑤中国の教育制度、大学受験などを含む「中国の学校教育」
 - ⑥標準語と方言、流行語などを含む「中国語に関する知識」

⑦風俗習慣や使用言語などを含む「少数民族に関する知識」

⑧世界遺産などの「中国の国土と自然に関する知識」

調査結果から、関心の高い順位は②、③、④、①、⑥、⑧、⑤、⑦となっており、学生が高い関心を持っているのは「中国の現代文化」(74%)と「中国の現代社会」(60%)であることがわかった。また、分類項目にある「世界遺産」(63%)、「食文化」(59%)、「中国人の考え方」(59%)、「社会問題」(49%)、「流行語」(48%)などが多く選ばれることから、これらの項目に強い関心が持たれていることも明らかになった。

上記の調査結果についてさらなる分析が必要だと思われるが、この点については、別の機会に譲りたい。今回は、このアンケートの調査結果を踏まえて、学生のニーズに応えつつ中国語学習の効果を高めるにはどのような動画を導入すべきか、さらには、学生のニーズがどのように形作られているのかにまで考察を深めながら、作業を進めていく。

二、オリジナル動画映像の編集方針

これまでに中国の大陸で作られ、出版された文化紹介の動画映像は多数見られる。しかしながら、これらのものはネイティブ向けのものであり、放送時間が長い上に、内容的にも専門性が高いため、日本における大学の語学授業に使用することには相応しくないとと思われる。一方、日本国内においては近年、中国の文化紹介に関する動画映像がいくつか出版されている。今まで授業中これらの映像を使用して、学生の反応を観察してきた。中国文化や中国事情を理解するには効果がある一方で、ナレーションはすべて日本語であるため、学生にとってはテレビのドキュメンタリーを観るのと同様に、中国語の学習にどれぐらいの効果があるかは疑問を持たざるを得ない。そこで、今回、中国文化を紹介すると同時に、語学学習の教材としても使用できるオリジナル動画映像を作ろうと考えている。

まず、最新の中国、リアルな中国の映像を示すというコンセプトのもとで、「都市編」、「少数民族編」、「世界遺産編」に分けて、動画の撮影を行う。撮影した映像について、中国語のナレーションと日本語の字幕を同時に用いて作成する。具体的には、中国語で学生と先生との会話形式で、映像の内容を展開していく。必要な部分だけ、全体的なナレーションを加える。

仕上げた動画映像はすべてのレベルに適應できる。例えば、初級者の場合は、中国語を聴きながら、日本語の字幕を観て、内容を理解する。すなわち、文化に関する内容を理解することだけではなく、中国語の発音を聴き慣れることにより、リスニング向上の効果も期待できる。上級者の場合は、日本語の字幕を示さず、単にリスニングの教材としても使えるようになる。

このようなコンセプトのもとで、今年度、第1弾として、以前撮影した既存の動画を活用して、トライアルを行った。これらの動画は、学生の集中力を考慮し、一つの映像を10分間にまとめたものである。また、中国の音楽、とりわけ、民族音楽も知ってもらい、楽しんでもらうため、動画の

内容に相応しい音楽を選び、BGMとして使用している。ただし、中国語のナレーションの編集作業が未完成のため、字幕に加え、教員による口頭での補足を行って活用した。

三、トライアル動画の導入とその初歩的効果

上記のアンケートの調査結果を踏まえて、春学期と秋学期それぞれ二つずつトライアル動画を紹介した。春学期には、アンケートで学生が最も関心を示した「中国の現代文化・社会」の中から『大学生生活』、分類項目に関心度の最上位の「世界遺産」から『世界遺産九寨溝』、計2本の動画を選び出して活用した。観賞後、学生同士で日中間の文化の違いなどについて、ディスカッションを行った。さらに、動画の内容を深める形で、日中文化の相違について各自で調べた内容を期末試験の1問として出題した。

まず、動画『大学生生活』については、入学時期と全寮制であることが日本と全く異なることに驚いた学生が多く見られ、それについて調べて、それぞれのメリットを述べた学生もいた。また、日本では「研究手段を学ぶ」、「一人暮らし」、「アルバイト」を中心とする大学生生活に対して、中国では「専門的な知識を学ぶ」、「集団生活」、「仕送り」といった大学生生活を送っているなど、両国の相違点を比較した学生もいた。

もう一方の動画である『世界遺産九寨溝』については、学生の多くは中国に対して、深刻な大気汚染の問題を抱えているという印象が強かったため、これほど美しく且つ環境がよく保護されている世界遺産があることに驚きを隠さなかった。そして、中国の環境保護法から、世界遺産の数、九寨溝までのアクセス方法、九寨溝に関する伝説、中国の世界遺産を申請する背景に存在する問題まで、さまざまな角度から調査し、多様な意見が出された。

こうして関心のある内容について自ら調べることにより、より中国に対して関心を持ち、学習意欲の向上にもつなげていくことができるのではないかと思われる。

秋学期には、『少数民族(1) — 基諾族』と『少数民族(2) — 納西族』を活用した。中国の少数民族について、学生の多くはチベット族とウイグル族しか知らず、且つ関心を持つ割合は15%にとどまることがアンケート調査から判明していた。しかしながら、学生が関心を持たないのはそもそも中国の少数民族自体を認知していないのではないかと想定していたため、少数民族の生活様式を撮影した動画を活用したことには、学生により多くの知識を学んでもらい、視野を広げてもらい、彼らが知らなかった中国の魅力を感じてもらいたい、というねらいもあった。

映像を観賞した後の学生の感想を下記のように分類し、その中からいくつか抜粋した内容をここで紹介する。

(1) 新たな知識を得ることができた

- ・日本とは違い、中国は国内で文化の異なる地域が多く、一緒の国のようで違う印象を受けた。

- ・中国のことは、語学を勉強しているだけであって、文化などは一切知らなかった。こうして授業内で他国の文化に触れることはとても新鮮なことだと映像を見て実感したので、良い機会になったと思っている。
- ・中国の中でも言語が地域や民族によって異なるのだと改めて感じた。
- ・一つの国なのに、日本の方言とは根本的に異なる言語が存在していることに驚いた。

(2) 中国に対する関心が深まった

- ・少数民族の日常生活や雰囲気を見て、それぞれの文化や伝統をすごく感じ、とても魅力的だなと感じた。中国に対してさらに関心が深まった。
- ・映像を見て興味を持ったため、これからも自ら中国に関して積極的に近づき学びたいと意欲を持った。特に中国の音楽に興味関心がある。
- ・一生に一度中国に行って、さまざまな文化に触れたい。
- ・世界中の民族に共通して言えることは独特な衣装を着ているところ。それぞれの文化が垣間見えるのが衣装だと思った。ジノ族のダンスはとても歴史を感じさせるもので、実際に現地まで足を運んで、肌でその文化に触れてみたい。

(3) 自文化と比較し、相違点を見つけることで、調べたい気持ちが高ぶった。

- ・耳や歯をあのようにするのはなぜか、いつから続いているのかが気になったので調べてみようと思った。
- ・歯を黒くする習慣はなぜ生まれたのか。図書館でジノ族について詳しく調べたくなった。
- ・お歯黒、赤い糸、日本とかなり離れているが、文化の差異だけではなく、共通点もあるなと思った。中国から日本に多くの文化が伝わっているが、この民族も関係しているのではと興味がある。

このように、今まで触れる機会のなかった少数民族のことを新たな知識として得ることにより、中国の文化に対する関心がさらに高まったことは学生の感想からも読み取れる。また、「民族とはどういうものか分からなかったが、今回の映像を見て以前より少し理解できたような気がした」と書かれた感想から、少数民族に対する関心度が低かった（春学期のアンケート調査結果）のは、日本人の学生はそもそも民族意識が希薄であるからとも考えられる。

一方、秋学期の期末に、映像を観賞した一年生を対象に、トライアル動画導入による中国文化に対する関心度及び中国語学習に対する意欲についての変化を調べるアンケート調査（有効回答数105枚）を実施した。評価の高さ・変化の大きさを5段階（「5」が最高値）で記してもらった結果の一部は下記の表1にまとめたものである。

また、下の図1の「鑑賞後の感想」として挙げられている5項目は、学生の自由回答を整理したものである。

表 1

項目	5	4	3	2	1
1 中国の文化紹介に関する必要性	25%	62%	10%	3%	1%
2 動画映像による中国文化紹介の有効性	34%	50%	13%	1%	1%
3 中国文化に対する関心度の変化	18%	64%	18%	0%	0%
4 中国語学習に対する学習意欲の変化	22%	48%	28%	3%	0%
5 少数民族に対する関心度の変化	13%	50%	30%	4%	2%

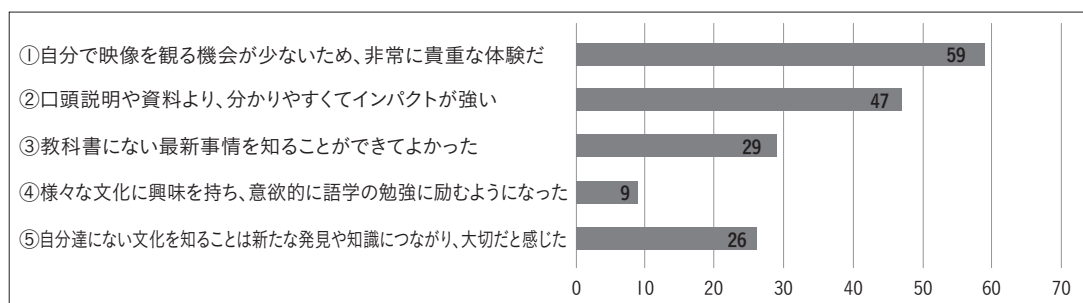


図 1 観賞後の感想

表 1にある項目 1 と項目 2、図 1にある項目 1 と項目 2 の調査結果から、学生は文化紹介の必要性や、動画導入による文化紹介の有効性に対して高く評価していることがわかった。また、動画による紹介も学生の中国文化に対する関心度の高まりに効果があったことを表 1 の項目 3 に示されている。一方、表 1 の項目 4 が他の項目に比べて「5」「4」を選んだ比率が低めで、「3」を選んだ比率が高めであること、また、図 1 の項目 4 を選んだ学生が他と比べてかなり少ないことから、このような動画導入による取り組みは学生に中国文化に対する関心度を高めさせることに効果があったものの、それが直接語学学習の意欲向上に繋がったとは言い難い結果となっている。今年度導入したトライアル動画は既存の動画映像とは変わらず、日本語で対応していたことも原因の一つと考えられるが、映像観賞後、動画の内容をいかに中国語学習に繋げていくかも大きな課題となって、今後さらなる工夫が必要だと思われる。

四、今後の予定と残された課題

- (1) 今年度撮影した内容をもとに、「貴州の自然」と「少数民族—ミヨウ族・トン族」をタイトルにした二つの動画映像を年度末に「試用版」を完成させて、次年度、動画の利用を希望する中国語教員に提供する予定である。使用した教員からのフィードバックを受けて、2017年度中に修正を加えて「第 1 版」を完成させたい。
- (2) 完成した動画映像と授業での活用状況について、FD活動の一環として、2017年度の秋学期に

口頭発表を行い、その内容をもとに、今後『カルチュラル』に投稿する予定。

(3) 残された課題は以下のように整理した。

- ① 編集作業は学生の反応を見ながら調整を重ねているので、今後も導入と編集方針の調整を相互往復的に進めていく。
- ② 動画を観た後のディスカッションや調べ作業を深められるためには動画編集上でどんな工夫が可能かを検討していく
- ③ 「対外漢語教育拠点」や先駆的な取り組みをしている諸大学、および先行研究の最新の成果を踏まえて、動画の編集方針に取り入れていく。